第142回　街なか研究会

テーマ　雑司ヶ谷散歩
日時　令和４年４月23日（土）15:30～17:00／17:00～19:00
案内　猪瀬典夫氏
会場　雑司ヶ谷周辺
幹事　今井晴彦・猪瀬典夫
参加者　荒木克成、伊藤雅彦、猪瀬典夫、今井晴彦、木村晃郁、小浪博英、曽川禎之、髙尾利文、髙橋美江、掘田紘之（敬称略・五十音順）

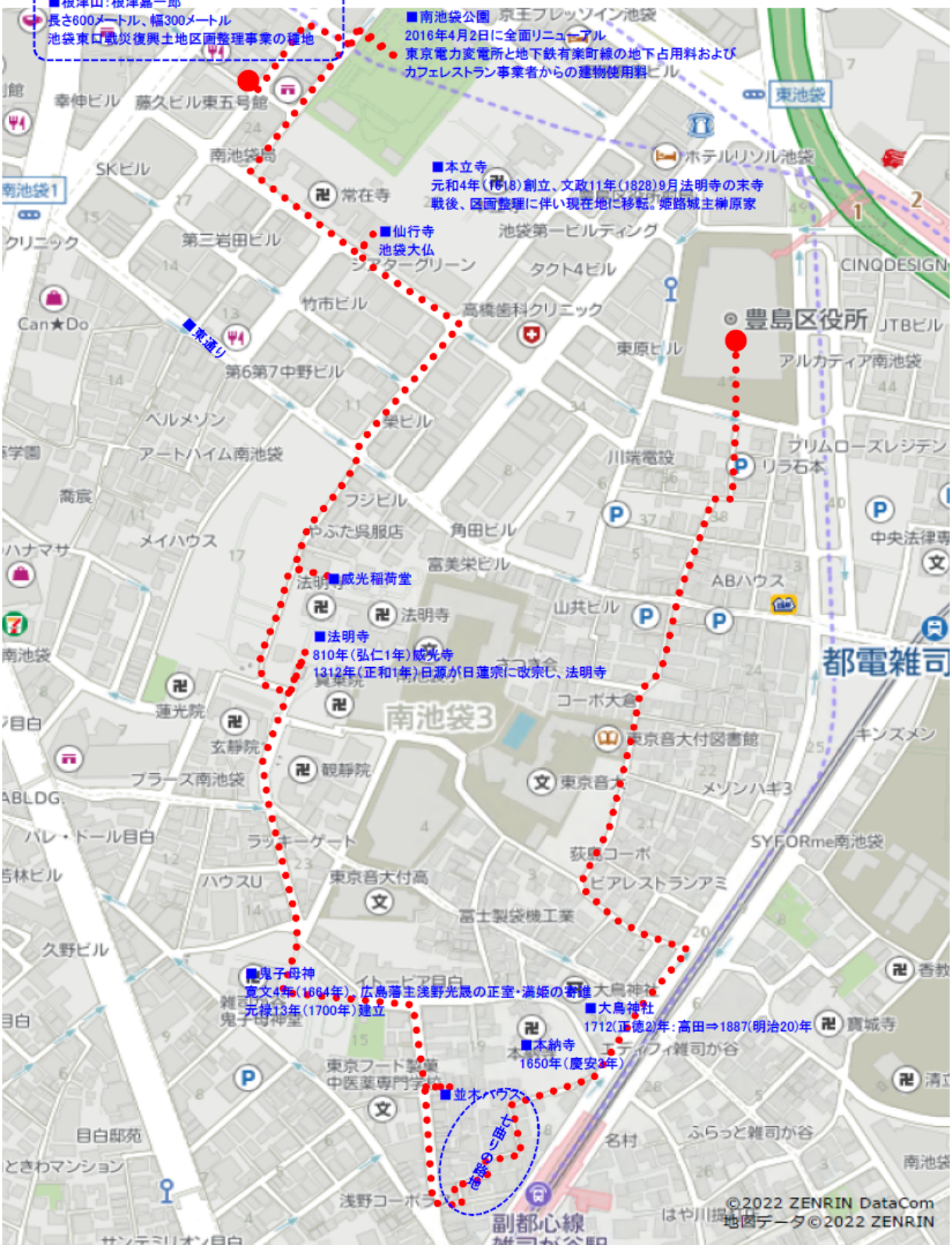
集合　豊島区役所１階ロビー　ファミマ近辺
行程　1.8km
豊島区役所
⇒ 東京音大（付属図書館）⇒ 大鳥神社⇒ 本納寺
⇒ 鬼子母神通り⇒ケヤキ並木 ⇒ 七曲り路地
⇒ 雑司ヶ谷案内処⇒ 鬼子母神
⇒ （戦災復興されたエリア）寺町・南池袋公園
⇒ 懇親会場
懇親会　清龍酒造 南池袋店（豊島区南池袋２－２７－１８　電話 03-3985-6344）
会費　500円（運営支援金）＋1,500円（懇親会費、飲み放題付き）

全国路地のまち連絡協議会　雑司ヶ谷街歩き 20220423 ルート紹介

猪瀬典夫

平成の都市整備＆昭和の路地	■　豊島区役所 1 階ロビー：集合・PM３：30 スタート ・　豊島区庁舎は、旧日出小学校跡地などを区域内に含む南池袋二丁目Ａ地区市街地再開発事業（第一種市街地再開発事業）により、2015 年（平成 27 年）に完成し、上層階は定期借地権付分譲マンションとの複合建築物。 ■　再開発・都市整備が進む池袋駅周辺に残る昭和の雰囲気が残る住宅地の路地 東京音楽大学の校舎を西側に見ながら、住宅地の路地を南下。
江戸時代の寺町の面影	■　大鳥神社：1712(正徳 2)年に高田地区に創設され、⇒1887 年(明治 20 年)に現在地へ移転。 ■　本納寺：1650 年（慶安 3 年）建立
昭和の面影を残す住宅地の路地	■　七曲りの路地：昭和の面影を残す路地 ■　鬼子母神のケヤキ並木参道 ■　並木ハウス：登録有形文化財（昭和 28 年建設)、手塚治虫がトキワ荘の後、居住。 ■　五軒長屋である並木ハウスアネックス：登録有形文化財（昭和７年建設）
江戸時代の寺町の面影	■　鬼子母神堂：寛文 4 年（1664 年)、広島藩主浅野光晟の正室・満姫の寄進。元禄 13 年（1700 年）建立。 境内：江戸時代から続く駄菓子屋・上川口屋 ■　法明寺：810 年（弘仁 1 年）威光寺として建立。 1312 年（正和 1 年）日源が日蓮宗に改宗し、法明寺。 ※　法明寺と墓地の間の路地⇒■威光稲荷堂
戦災復興土地区画整理事業で形成された街区	■　東通り（南池袋東通り商店会） 近年、南池袋エリアの２等立地として、若者に人気のカフェやレストランが多数立地。 ■　本立寺：元和 4 年（1618）創立、文政 11 年（1828）9 月法明寺の末寺。戦後、区画整理に伴い現在地に移転。姫路城主榊原家の菩提寺。 ■　仙行寺：文京区から明治四十五年、道路の改修の為に豊島区蟹ヶ窪に移転。池袋大仏は 2018 年に完成した木彫。「仙行寺綜合文化会館・シアターグリーン」を開設・運営。 ■　南池袋公園：2016 年 4 月 2 日に全面リニューアル。東京電力変電所と地下鉄有楽町線の地下占用料、及びカフェレストラン事業者からの建物使用料収入による維持管理。 ※　根津山：現在のグリーン大通り・南池袋公園周辺にあった根津嘉一郎氏所有の雑木林。（長さ 600 メートル、幅 300 メートル）池袋東口戦災復興土地区画整理事業の種地として活用された。 ※　根津山には太平洋戦争の空襲で亡くなった人の仮埋葬地として、遺体が続々と運び込まれ、埋葬作業には根津山から道路一つ隔てたところにあった東京拘置所の囚人が動員された。
懇親会	■　清龍酒造　南池袋店（17：00～19：00）

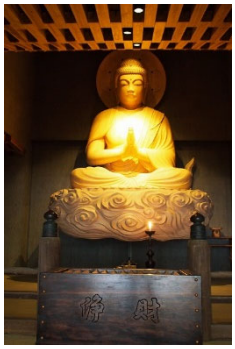
20220423　路地協『雑司ヶ谷街歩き』



参加者の感想

小浪博英

江戸時代に遡る寺史を持ちながら東京大空襲で全焼し、苦難を乗り越えて2018 年に新本堂が完成した日蓮宗松栄山仙行寺。建築家の原田真宏氏の設計で、ビルは８階建て、７階に本堂がある。ビル全体の緑化と、１階に鎮座する像高 5mの池袋大仏が見ものである。



今井晴彦

自宅から歩いても 20～30 分のところで、或る程度馴染みもある地域なので、あまり発見というようなことは無かった。

しかし池袋から入って、未整備の木造住宅地は、いたるところに空き地が発生しており、今後の変化がどうなるのか興味がわく。

雑司ヶ谷は江戸時代には若干の旗本屋敷があったものの、江戸の郊外農村、その雰囲気はなんとなく感じられたのは良かった。

荒木克成

平成最後の年の暮れ、副都心線雑司が谷駅を下車し、日本女子大目白キャンパスへ行く所用の帰路、椿山荘に向かった道すがらの景観が私の今までの雑司が谷へのイメージでした。鬼子母神参道、お堂、法明寺、創業 1781 年の駄菓子屋、名代羽二重団子などの庶民的な暮らし向きを醸し出す場面や、民家間近に立つ樹齢を重ねた大樹の神々しさを嗅ぎ、深紅の鳥居がつなぐホットスポット威光稲荷などを路地伝いに巡ったことで、雑司ヶ谷という町が鬼子母神とは切っても切れないことを思い知ったのでした。更に、建物内に鎮座した仙行寺池袋大仏に手を合わせ、すぐ先の南池袋公園にて青々とした芝生で寛ぐ人々にも視線を寄せながら、居酒屋の建ち並ぶ通りまでの道のりに新型コロナが封印した小旅の心地よさが蘇るのでした。司波さんの街を見る慧眼には、今もって感服するしかありませんでした。

髙尾利文

全長約 1,800mの旅程に対して、上下移動は延べ約 36m。最も高いところは発地の豊島区役所と着地の居酒屋清龍あたりでともに約 33m、最も低いところは弦巻通りと交差するあたりで約 25m、その差は約 8m。案内人の猪瀬氏によると昔は弦巻川であったとのことで、路地はこの旧川沿いに豊かな緑とともに残っていた。

掘田紘之

副都心の繁華地区の縁辺部にしては、残った路地で形成された静かな住宅街という印象であった。普通なら明治通り沿いの後背地区に、小さな店などが滲みだして、裏副都心地のような様相を呈しそうな所であるが、鬼子母神や法明寺とその墓地にガードされ、開発の波に攫われなかった地区ではないだろうか。

木村晃郁

東池袋の再開発の波を受けながら、昔ながらの街並みが生き残っている。
中でも、七曲がりの路地は秀逸で、右に左に折れながら、我々をその先に誘ってくれる。狭い路地空間に物干し、路地に暮らす人々の息づかいが聞こえてくるようだ。夏は、ここに演台を出し、高校野球を聞きながらビールか、はたまたスイカか。スローな時間を過ごしたい。昔、滝田ゆうが描いた「抜けられますか」の世界である。
路地中央には、まちづくり活動で整備された井戸「七曲がりの水」がある。

補足

この地域では、「雑司が谷・南池袋のまちづくり」が行われており、昭和 57 年の「雑司が谷地区不燃化促進協議会設立」から連綿と続いてきている。七曲がりの路地の中央にある「七曲がりの水」(井戸)はそのまちづくり活動で地区内に残っている井戸を保全し、災害時の水として利用できるように井戸広場として整備されたもの。ほかに、「弦巻の水」「柳の水」の 2 つがある。現在は、豊島区による雑司が谷南池袋地区居住環境総合整備事業（いわゆる密集事業）が行われており、道路と公園の整備が進められている。

MAP
飛鳥山
田楽